ＩＣＴ学習教材コンテンツ活用実践事例

学校名	県立八戸盲	学校

授業について	教科領域名 （✓又は■で記入する。）	□国語　□社会　□算数・数学　□理科　□外国語・外国語活動　□生活　□音楽 □図画工作・美術　□体育・保健体育　□技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 □特別の教科　道徳　□総合的な学習（探究）の時間　□日常生活の指導 □生活単元学習　□作業学習　□遊びの指導　□特別活動　■自立活動 □その他（　　）
	単元(題材)名	ビジョントレーニングをしよう
	単元(題材)の目標	眼球運動コントロールや視空間認知を高めながら、視覚能力の向上を図る。
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学　部　１、２　年　２　人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	・図形を同じ形に視写することが難しい。 ・本や文章を読むときに、行や列を読み飛ばしすることがある。 ・集中力が持続しづらい場面があり、集中して学習に取り組むための工夫が必要である。 ・物事の手順を写真等で示すことで、一人で落ち着いて取り組むことができる。
ＩＣＴ活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad
	使用したアプリケーションの名称	「視覚認知バランサー」
	主な活用の用途 （✓又は■で記入する。）	(複数選択可能) □コミュニケーション支援　（□意思伝達支援　□遠隔コミュニケーション支援） □活動支援　（□情報入手支援　□機器操作支援　□時間支援） ■学習支援　（□教科学習支援　■認知発達支援　□社会生活支援） □実態把握支援
	ＩＣＴ活用のねらい	・学習対象に対して興味・関心をもち、進んで取り組むことをねらって ICT を活用し、その教育効果を高める。 ・使用したアプリは、目のトレーニングに使える iPad アプリで、図形記憶、追視・注視、形の移動、不完全図形のイメージ等のトレーニングに特化している。
活用の状況と支援	活用の状況と支援	自立活動を中心にビジョントレーニングの一環として取り組んでいる。 視覚に関わる機能は、目だけでなく、脳の働きと関係がある。本アプリは、１６のプログラムがあり、眼球運動、追従性眼球運動、跳躍性眼球運動、視空間認知を鍛えるトレーニングなどが効果的に配列され、図形記憶、追視・注視、形の移動、不完全図形のイメージ等、ゲーム方式で取り組めるようになっている。 画面上で移動する対象物に注目して画面タッチをすることは、目と脳と身体を繋げるトレーニングにもつながり、様々な機能の強化に役立っていると思われる。